

① 涌井・豊富地区（美里町）

住み続けられるふるさとづくり
～みんなのできることから少しずつ～

ビジョン策定年度：平成29年度 目標年度：令和3年度



1. モデル地区のプロフィールと現状

(平成29年度)

◆農業者に関する状況

・総戸数	56戸
・総人口	223人
・農家戸数	45戸
・農業者数	35人
・担い手数	45人
・65歳以上の農業者数	20人

◆農地に関する状況

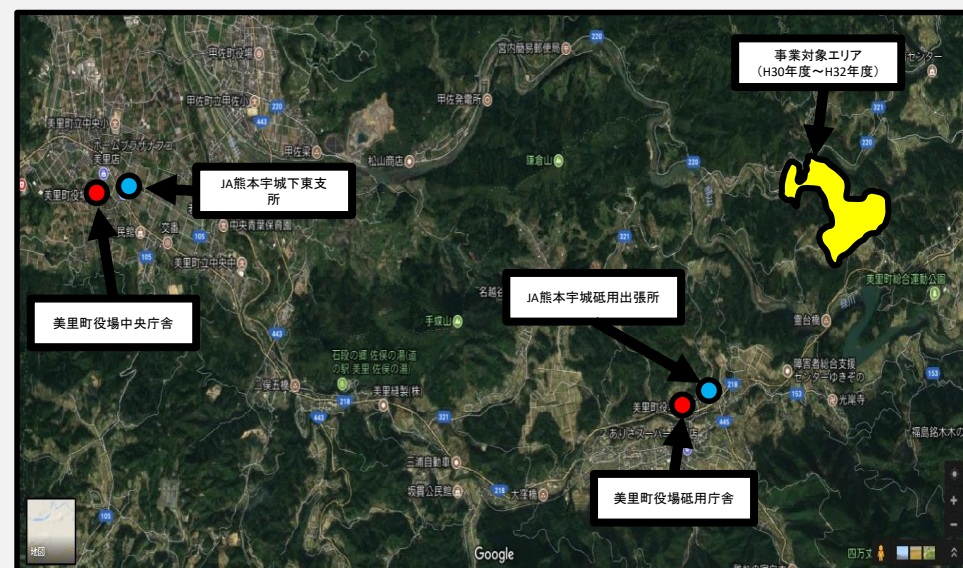
(1)面積区分	
・水田	35.2ha
・畑(樹園地除く)	0.2ha
・畑(樹園地)	0.3ha
(2)筆数	
・水田	595筆
・畑(樹園地除く)	24筆
・畑(樹園地)	3筆
(3)作付区分	
・水田	水稻
・畑(樹園地除く)	里芋
・畑(樹園地)	柿
(4)耕作放棄地	
	あり

◆基盤整備に関する状況

(1)ほ場整備	11.3ha整備済
(2)耕作道路	幅員2.0m以上、舗装済
(3)排水	コンクリート水路
(4)用水	水路から直接取水

◆集落の現状

- 高齢化による担い手不足が深刻化している。
- 狭小な水田が多く、機械化に支障をきたしている。
- 遊休農地が増加している。
- 農作物への鳥獣被害が深刻化している。
- 「庵室」機械利用組合による水稻用共同機械の利用が行われている。



2. ビジョン策定のプロセス

(1)ビジョン検討のスタートに向けて

高原地帯でなだらかな地形である涌井・豊富地区は、農業用水の確保に苦勞する中で開田し、米作などを生業としてきた地域である。

地区内には、昔ながらの段々畑、三日月形やくの字形のほ場など、軽トラックも入らないような狭小で不整形な農地が点在し、農作業者にとって非常に不効率な状態となっている。個人での区画整備は難しく、どうやって農地を次世代に受け継ぐかということに対して地元農家は大きな危機感を抱いていた。

中山間農業モデル地区支援事業の提案があった時、地域ではちょうど国の中山間地域総合整備事業で優良農地のほ場整備がスタートしたところだった。中山間農業モデル地区支援事業の内容を確認したところ、「基盤整備は優良農地だけでなく隣接する農地も取り組み可能」と記してあった。

中山間地域総合整備事業は5～7年と長期にわたるため、整備完了はまだ先の話であるが、この中山間農業モデル地区支援事業を使えば基盤整備から外れた農地の整備が可能となる。そうすれば地域の意識を少しずつも高めていけるのではないか。以上のことから、基盤整備への足掛かりとして中山間農業モデル地区支援事業を進めていくこととなった。

(2)組合設立の経緯

当地区はもともと施設園芸としてメロン栽培を行っていたほど土地はいい。水田は狭小であるものの、良食味米を生産してきた。以前のような状況に戻したいという思いは皆が抱えていた。

高齢化と後継者不足が深刻化する中、5年先、10年先に地域が衰退していくことは目に見えている。そんな状況を危惧した水利組合のメンバーから「どうにかしましょう」との声が上がり、平成27年、年末に45名のメンバーに声を掛けて総会を開催。水田を広くし、大型農業化を図って農家数を増やそうと、涌井地区内の小部落「庵室」で機械利用組合を立ち上げた。

そういった経緯から、平成28年度に中山間農業モデル地区支援事業の話が出た際には大型農業化に向けて前向きな者が多数存在した。そこで、涌井中山間地域総合整備事業圃場整備委員会を設立。

(3)ビジョンの検討

農業ビジョンの検討は平成29年9月、4名の役員でスタート。参加者に聞き取りを行いながら地域と行政で課題を抽出し、「将来的には集落営農につなげていきたい」など自分たちが目指す将来像を話し合っていた。

今回の事業にあたっては面的な整備が可能ということで、メインテーマは「基盤整備について」だった。そのため、当初は、本来の目的である「地域の将来ビジョン」とはやや外れた内容となったが、回を重ね、より幅の広い将来像を検討していくに至った。

また、中山間農業モデル地区支援事業は住民の機運を高めていく場としても活用できると考え、情報交換などにも積極的に利用していくこととした。



ビジョン案の策定会議(本部役員打ち合わせ)



耕作道路・用水路整備に関する地権者協議



耕作道路・用水路整備に関する地権者現場確認

◆モデル地区農業ビジョンの検討の流れ

番号	日付	場所	話し合いの内容	参加人数
1	H29.9.21	会長会社事務所	中山間モデル事業の採択にあたり、3か年計画の打合せを行った。	4名
2	H29.10.4	峙原公民館	中山間モデル事業にあたり、ビジョン作りの策定など県の説明を受けた。	9名 (県・町3名)
3	H29.10.5	豊富耕作道路現場	地権者の代表的な立場の富永直美氏との現場立ち合いを行い、改めて必要性の確認。	5名 (地元1名)
4	H29.11.11	豊富桑鶴公民館	豊富地区の耕作道路整備における地権者への説明会及び整備事業の必要性の確認。	14名 (地権者9名)
5	H29.11.12	豊富耕作道路現場	耕作道路整備個所の地権者現場確認。	20名 (地権者14名)
6	H29.12.11	峙原公民館	ビジョン策定に向けた打合せ。(内容検討)	6名
7	H30.1.25	峙原公民館	ビジョン策定に向けた各地区役員との打合せ及び県・町職員の検討会。(内容検討)	16名 (県・町3名)
8	H30.2.27	峙原公民館	ビジョン策定の内容検討会及び今後の打合せ。	6名
9	H30.3.5	峙原公民館	ビジョン策定における、各地区役員との今後の打合せ	13名
10	H30.3.21	庵室・竹の迫公民館	ビジョン策定における説明会	37名

3. 集落の「課題」と「将来像」

◆ 集落の課題

- 高齢化による担い手不足が進行し、深刻化している。
- 狭小な水田が機械化の支障となっている。
- 遊休農地が増加している。
- 農作物への鳥獣被害が深刻化



◆ 集落の目指す将来像

- 耕作条件を改善することで、現状より大型の機械を導入している。
- 耕作条件を改善した農地で、今まで導入できなかった施設園芸等が可能となり、高単価な作物を導入している。
- 地域の特産品を新たに開発し、販売している。
- 農業所得が現状より5%程度向上している。
- 地区外の担い手の農地を受け入れている。



◆ 成果目標

- 里芋の作付面積を全体で50a増加させる。
- 都市との交流事業を実施する。
- 「くまさんの輝き」の作付面積を25a実施する。

(1) 地区が抱える課題

◆ 解決に向けての進捗

平成30年に一部耕作道路と排水路の改修を行った。道路については幅員を2mから3mに拡幅。軽トラックを含め、トラクター、コンバインなどの農業機械も入れるようになった。

また、平成30年から31年にかけて農業用格納庫の整備を行った。

◆ 新たな課題

改修ができたのは、全体から見ると一部の地域である。メインである優良地域の基盤整備ができないことには全体的な問題解決には結び付かない。

一刻も早いメインの基盤整備が待たれるが、地震の影響や工事の不調不落などが原因となり長引いている状況。涌井地区においては少なくとも3～4年後あたりでないと事業着手は難しい。別の事業も利用して、できるだけ早く着手できないかを検討している最中である。

組合ではビジョンの実現に熱意を持って取り組んでいるものの、基盤整備の実現が今以上に遅れるとモチベーションの低下につながるのではないかと心配している。

(2) 将来像に修正は必要か

担い手不足問題に対しては、町内で空き家化した古民家を再生し、九州の軽井沢にしようという動きがある。古民家に移住してくる人の中には就農希望者もいるが、田舎は「人間性を知るまで他人には農地も家も貸したくない」という風潮もあり、移住者と賃貸人のマッチングが難しい。

また、機械化ができない狭小な農地を借りて新たに農業を始めようという就農者を、地区外に見つけることは困難なのが現実。

遊休農地は、有害鳥獣の問題や耕作条件の悪さ、高齢化、耕作者が亡くなったなどの理由で増加している。地域で草刈り等を行い、維持していこうという意識は強いが、農作物を作るまでには至っていない。

有害鳥獣はイノシシ、シカ、アナグマ、ハクビシン、タヌキ、サルなどがおり、地域で駆除にあたっている。改善までには至っていないが、これ以上耕作放棄地を増やさないよう現状維持を目標に努力を続けている。

4. 取り組み状況

[ビジョンの内容]

(1) 基盤整備の実施

- ◆現状の耕作道路の整備について、現状幅員2mを3m程度に拡幅することで、軽トラック等の機械が進入できるようになる。
- ◆基盤整備を実施することにより、農作業環境が改善でき、機械の利用効率が図られることにより、広域的な機械利用組合又は集落営農へと繋がっていく。
- ◆本地域では良質米が栽培できることを強みとし、作物の生育環境を改善することで、集落として農地を守り、更なる良質米の栽培につなげ、収量の増加を図る。

(2) 高単価作物の導入

- ◆にがごり栽培の推進。
- ◆エリア内で高単価作物として、かぼちゃ(くりゆたか)とスイートコーンを試験的に導入する。
- ◆また、くりゆたかとスイートコーンを地域の特産品として位置づけ、物産館等で販売する。

(3) 農観連携の実施

- ◆中山間事業及び集落協定により、フットパス事業と連携し、都市との交流事業を行う。

(4) 研修会の開催

- ◆地域にあった将来の取り組みに向けた研修会を開催する。

[各項目の取り組み状況]

(1) 基盤整備の実施について

◆取り組みの状況

涌井・豊富地区の一部農地については耕作道路と用水路の改修を行った。

◆取り組みの成果

車が通りにくかった小敷迫(こしきさこ)地区の農地一帯の基盤整備を行ったことで、左右それぞれの農地の管理が可能となった。

◆解決すべき課題

特に困難な課題は発生していない。

◆今後の方針

今後も継続して基盤整備を行う。



↑ 作業路整備(左整備前、右整備)



← 用水路整備の様子

(2)高単価作物の導入について

◆取り組みの状況

里芋、にがごり、深ネギなど、栽培にあまり手が掛からずに高齢者でも育てやすく、狭い農地でも栽培可能な作物栽培に取り組んでいる。また、町の特産物として補助を受け、かぼちゃ(くりゆたか)とスイートコーンの試験栽培を行っている。

◆取り組みの成果

この中山間農業モデル地区支援事業の話が出て以降、「年寄りもせにやいかん」とやる気を持って栽培に取り組むようになった。

かぼちゃ(くりゆたか)とスイートコーンはJA、物産館、直売所で販売。他の作物も数か所の直売所で販売を行った。その結果、農業所得を5%ほど向上することができた。

◆解決すべき課題

農業所得が5%向上したといっても、まだ売上規模は小さく、実際の売上は横ばい程度で、大きく伸びているような手ごたえはまだ無い。農作物の収量が多いと価格が下がり、生産者の士気も下がる。利益の安定性を図るためにも販路拡大は今後の重要な課題である。

◆今後の方針

売り上げ目標は特に掲げていない。漬け物づくりなど6次産業の取り組みをスタートさせたい。



(上から)かぼちゃ(くりゆたか)、
にがごり(左)、深ネギ(右)、
里芋

(3) 農観連携の実施について

◆ 取り組みの状況

美里町のフットパス協会が運営・実施するフットパス事業では、当地区は15コースのうちの「霊台橋石橋コース」の一部となっており、協力依頼に対応している。

対外的な活動としては、フットパスの拠点である美里物産館「よんなっせ」に生産者が農作物を持参してフットパス参加者に販売するほか、イベント時には食材の提供(有料)を行うなどして交流を図っている。

◆ 取り組みの成果

米は5kgを2000円で販売。米や野菜には生産者の名前と連絡先を添えており、購入された方から「美味しかったから」と直接生産者に再注文をいただくこともある。地域外からの参加者と対面で交流することは、生産者にとっても楽しみの一つとなっている。



霊台橋



美里物産館よんなっせ

◆ 解決すべき課題

今後は組合として加工品の販売も行っていきたい。

◆ 今後の方針

美里町には様々な観光資源がある。一地域のみにとらわれず、柔軟かつ幅広い活動を進めていきたい。ダムを活用したさくら健康フェスタやウォーキングイベントなど、広域イベントの出品依頼にも積極的に参加していく。

(4) 研修会の開催について

◆ 取り組みの状況

まだ手付かず。今後の予定としては、年々農業被害が甚大化している有害鳥獣対策の研修会・勉強会を検討している。まずは害獣駆除・捕獲に手をつけないと、区画整備しても作物への被害は広がるばかりである。

◆ 取り組みの成果

手が付いていないため、成果はない。

◆ 解決すべき課題

特に新たな課題は生じていない。

◆ 今後の方針

計画のとおり、研修会や勉強会の開催に向けて検討していきたい。

5. まとめ:成果と今後の展開方向

◆成果目標

- ・里芋の作付面積を全体で50a増加させる。
- ・都市との交流事業を実施する。
- ・「くまさんの輝き」の作付面積を25a実施する。

(1) 全体的な成果

①住民のやる気を引き出した！

現在、役員は13名。役員を通じて幾度となく行政と交流し、密な会合が持てたことは良かった。今も年に3～4回の会議を行っており、回を重ねるごとに全体的な理解の深まりを実感できている。目標がはっきりと見えたことで、高齢者が多い状況下でもやる気が出て、現時点では充実した地域づくりができています。

②里芋、作付面積50a増加の目標達成！

里芋の作付面積は既に目標値を達成。現在は約1haに作付面積を増やしている。

③都市部との交流事業「ほたる祭り」の実施。

フットパス事業への参加のほか、涌井地区では都市との交流を深めることを目的に「ほたる祭り」を6月に開催。ほたる祭りに合わせ、孟宗竹でプランターを作り、国道沿い1kmにわたって松葉牡丹など5、6種類の花1500本を植えて景観づくりに努めた。祭りではスタッフ27名でだご汁と煮しめと握り飯を作り、無料で振舞った。

これらの活動により田舎の良さを感じてもらい、住みたい町として実感してもらおうという目的。平成30年の集客数は約300人。

④「くまさんの輝き」は試験栽培を実施。

しかし、農薬散布量などの課題があり、令和元年度は中止。

熊本県農業試験場が中山間地向けに作った特別米「くまさんの輝き」を、平成30年度、20aで試験栽培を行った。米自体の性質は非常に良好で作りやすく、収穫量も多い。土地の条件に合うことは確認できた。

しかし県が定めた農薬散布量などの基準が厳しく、周辺の農地にも影響が及んだことから令和元年度については中止とした。

(2) 今後の展開方向

①農地の基盤整備！

最も大きな課題は地区全体の農地の基盤整備。引き続き取り組んでいく。

②行政とのスムーズな連携を維持。

行政担当者は定期的に足を運び、情報を提供してくれており、その情報に基づいて会議を行っている。引き続き、スムーズな連携を維持したい。

